

「授業改善のための学生アンケート」2019年度後期 顕彰授業について

2020年6月4日

白百合女子大学 FD 推進委員会

2010年度より全学で実施してまいりました「授業改善のための学生アンケート」に、2017年度より集計結果を活用した顕彰制度が導入されることになりました。アンケートの結果は、これまでも個々の授業改善に役立てられてきましたが、今後は高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有してまいります。

2019年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業についてのインタビュー等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2019年度後期

少人数部門

金4後 「演習」 森下 みさ子 (人間総合学部児童文化学科)

多人数部門

金3後 「創作文化研究Ⅱ」 やた みほ (人間総合学部児童文化学科)

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的 (実施要領より抜粋)

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定資料とするものではない。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の9項目(項目毎の平均点の合計/45点満点)とする。
 - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
 - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
 - Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
 - Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
 - Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
 - Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
 - Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
 - Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰部門は、「少人数部門」(回答者数6~25名)と「多人数部門」(回答者数26名以上)の2部門とする。
- ⑤ 顕彰対象は各部門第1位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業は大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD 推進委員会